

コンテンポラリー アニメーション入門

～現代短編アニメーションの見取り図～ 2018



セバスチャン・ローデンバック、グザヴィエ・カワトポール、ボリス・ラベ来日

入場料無料 事前申込不要 (先着順90名)
会場：東京藝術大学 横浜校地馬車道校舎

主催：東京藝術大学大学院映像研究科、横浜市文化観光局
アクセス：みなとみらい線「馬車道駅」7番出口を出てすぐ

Introduction to
Contemporary
Animation

我々の同時代にどのようなアニメーション作家が、どのような意識で作品を制作しているのでしょうか。短編アニメーションは常にアニメーション映像の可能性の最先端を走っています。しかし、実際に製作者や観客の興味の増幅ほど、短編アニメーションを見て知る機会は増えてはいません。まずその基礎知識を共有して、コンテンポラリーアニメーションの見取り図を描くことがこの公開講座の目標です。東京藝術大学大学院映像研究科では、世界的に「いま」を象徴する作家の作品の鑑賞を中心に、講義を公開で行います。



2009年7月に始まった公開講座「コンテンポラリーアニメーション入門」は、今年フランスから、セバスチャン・ローデンバック監督、グザヴィエ・カワトポール氏、ボリス・ラベ監督をお招きし、特別講座を開催します。

第28回講座
7月8日(日)

Sébastien Laudenbach



演題: **アニメーションの潜在的可能性** 講師: **セバスチャン・ローデンバック**

受付: 午後3時30分～ 上映と講演: 午後4時～午後6時30分(途中休憩有り)

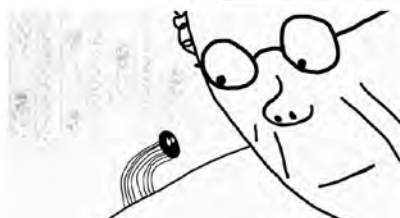
上映作品(予定): 「ヴァスコ」(2010)、「XI. パワー」(2013)、「ダフネー、またはいい女」(2014)、「詩歌・映画」連作シリーズ: 「狩猟での事故」、「Osn [女の彼]」、「Obet [オブエ]」、「右と左」(2014)、「大人のためのグリム童話 手をなくした少女」(2016) (抜粋) ほか

講師紹介: セバスチャン・ローデンバック(フランス)

アニメーション作家・イラストレーター。「日記」(1999年度クレモン＝フェラン映画祭で受賞)、「キッチンでイチャイチャ」(2004年度セザール賞入選)、「ヴァスコ」(2011年度カンヌ映画祭批評家週間、2012年度セザール賞入選)、「ダフネー、またはいい女」(2014年度エミール・レイノー賞)など、現在8本の短編を監督。作品が多く国際アニメーション映画祭で入選・受賞している。グラフィック・デザイナーとして、ポスター(「7月14日の娘」など)やエマニュエル・ムレ監督作品(「ルシーにお任せ!」、「ブリーズ・ブリーズ・ミー」、「ピーナスとフロール」など)実写映画のクレジットも手掛ける。2014年より詩人のリュック・ベナゼと協力して、「詩歌・映画」のシリーズも手掛ける。(現在四本完成)「大人のためのグリム童話 手をなくした少女」が初の長編作品。カンヌ映画祭のAcidセクション(実験映画部門)で上映され、アヌシー国際アニメーション映画祭長編部門特別賞など、国際的に様々な受賞した。フランスでは2016年12月14日に公開され、2017年度セザール賞に長編アニメーション部門で入選。2001年より、国立装飾芸術高等学校(Ensad)で講師として務めている。

第29回講座
7月15日(日)

Xavier Kawa-Topor



演題: **アーティストレジデンスの現在** 講師: **グザヴィエ・カワトポール**

受付: 午後3時30分～ 上映と講演: 午後4時～午後6時30分(途中休憩有り)

上映作品(予定): 「ルミナリス」(フアン・パブロ・ザラメラ、2011)、「チューリエン、鳥の物語」(スリーズ・ロベズ、アニエス・パトロン、2015)、「ニーナ」(マリア・クルケル、エマニュエル・エリアー、2015)、「座る男/マン・オン・ザ・チェア」(ジョン・ダヒ、2014)、「インボッシブル フィギュアズ アンド アザー ストーリーズ II」(マルタ・バイエク、2016)、「クモの巣」(ナタリア・チェルヌシヨヴァ、2016) ほか

講師紹介: グザヴィエ・カワトポール(フランス)

歴史学を専攻後、コンク中世芸術・文明欧州立文化センター、フォントヴロー修道院文化センターの所長を務めた。アニメーション映画への関心から、パリのフォーラム・デ・ジマージュで、世界中の著名な監督への「上映お任せ」、全国教育機関を紹介する「アニメーション交差点」や日本の作品を紹介した「日本の新しき映像」など、様々な催し物や特別上映をプログラムした。また作品の再公開などを通じて、ラディスラス・スタレヴィッチやエミール・コールなど初期の先駆者たちの再評価にも貢献した。フォントヴロー修道院では、今まで世界30ヶ国から200人の作り手たちを迎えた「アニメーション企画構想のためのレジデンス」を発足させた。2015年よりアニメーション映画を巡って業界と連携する研究組織「NEFアニメーション」事務局長。セザール賞アニメーション部門審査委員、国立映画庁配給助成金委員会副委員長。著書には「アニメーション・ビヨンド・リアル」や「アニメーション作品100選」(フィリップ・モワンスと共同責任編集) (ともに2016年、Capricci出版)。

第30回講座
10月28日(日)

Boris Labbé



演題: **実験アニメーションの最前線** 講師: **ボリス・ラベ**

受付: 午後3時30分～ 上映と講演: 午後4時～午後6時30分(途中休憩有り)

上映作品(予定): 「彼(ら)はぐるぐる回る」(2010)、「キリエル [しりと]」(2011)、「リゾーム [根]」(2015)、「どの道も」(2016)、「造山運動」(2016)、「転落」(2018) ほか

講師紹介: ボリス・ラベ(フランス)

1987年ランヌムザン(オート＝ピレネー県)生れ。フランスとスペイン(マドリッド)の間で暮らす。タルブ芸術・陶芸学校にて映像芸術資格修得後、アングレームのアニメーション専門学校EMCAに入学。在学中には、2012年のアヌシー国際アニメーション映画祭で学生部門の特別賞を受賞した「キリエル [しりと]」など、多数の作品を企画・制作。映画監督になるのと同時にアーティストとしても活躍し、マドリッドにある「スペインにおけるフランス・アカデミー」の「カサ・デ・ヴェラスケス」で客員芸術家として一年間滞在。その後、Sacrebleu社の製作で「リゾーム [根]」(2015年)及び最新作の「転落」(2018年)を制作。

注) 予告なく演題、上映作品、講師を変更する場合がございます。ご了承ください。
満員の場合には立ち見スペースがないため、会場には入れない場合がありますのでご注意ください。



Koji Yamamura

企画/進行: **山村浩二**
東京藝術大学大学院アニメーション専攻教授

1964年名古屋生まれ。『頭山』がアヌシー、ザグレブ、広島をはじめ6つのグランプリを受賞、アカデミー賞にノミネートされる。また『カフカ 田舎医者』がオタワなど7つのグランプリを受賞。2011年には日本人初のNFBとの共同制作『マイブリッジの糸』を完成。川喜多賞、芸術選奨文部科学大臣賞受賞ほかアニメーション作品の国際的な受賞は90を越える。米国アカデミー賞(映画芸術科学アカデミー)会員、国際アニメーションフィルム協会理事、日本アニメーション協会副会長。

入場無料/事前申込不要
会場: **東京藝術大学 横浜校地 馬車道校舎 大視聴覚室**

アクセス: みなとみらい線「馬車道駅」7番出口を出てすぐ
主催: 東京藝術大学大学院映像研究科、横浜市文化観光局
お問い合わせ E-mail: ca_info@animation.geidai.ac.jp
担当: イラン、久保 大学院映像研究科アニメーション専攻
詳細はホームページをご覧ください。

<http://animation.geidai.ac.jp/ca/>

